

論理的なコミュニケーション

【内容】

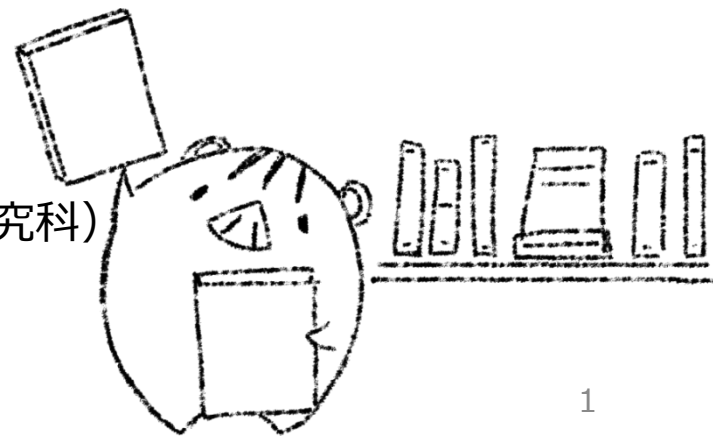
1. 日常のコミュニケーションと論理的なコミュニケーションの違い
2. 対話の型
3. パラグラフ・ライティング
4. まとめ

国際文化学部 C201

講師 齊藤美穂（国際教育総合センター／国際文化学研究科）

主催 神戸大学附属図書館

附属図書館 協同学修シリーズ



1. 日常のコミュニケーションと論理的なコミュニケーションの違い

スライドの「ありがちな会話」例を見て、何かおかしい点がないか、考えてみましょう。

会話①

会話②

会話③

会話④



1. 日常のコミュニケーションと論理的なコミュニケーションの違い

「日本的対話の特徴」 (三森2013, p.26)

- 察し合いの重視・以心伝心
- 曖昧で非具体的な質疑応答
- 根拠の未提示
- 場の空気の尊重

**論文執筆で求められるコミュニケーションとは
大きなギャップが...**

**➡日常のコミュニケーションスタイルからの
脱却が必要！！**

2. 対話の型

レポート・論文に必要なこと

- ✓ **明確な「問い」を立て、**
- ✓ **客観的な「根拠」にもとづいて**
- ✓ **「答え」を提示すること。**

読んだ人が、「問い」と「答え」のつながりを、
妥当なものとして納得できるような
「根拠」をもとに説明することが必要。
➡「対話の型」を使ってトレーニング

2.1 対話の型とは

対話の型

意見の主張



根拠（意見の背景にある理由・そこに至った原因など）



意見の再主張

意見文や小論文の構成と
基本的には同じ。



- 根拠を意識するようになる。
- 自分の意見を論理的に組み立てて述べる習慣がつく。
- 意見文・小論文が楽に書けるようになる。
- パラグラフ・ライティングにもつながる。

2.2 対話の型のトレーニング

「問答ゲーム」（三森2013）で**「対話の型」**の練習をしましょう。

「問答ゲーム」のルール

答えるときは

- A) **「主張→根拠→結文」**の順序で提示する。
- B) **主語**を明確にする。特に主張文に主語を入れ、その主張に対する責任を明確にする。
- C) **5W1H**を明確に提示する。
- D) 単語で話さない。
- E) 禁止用語を使わない：
「わからない・別に・なんとなく」

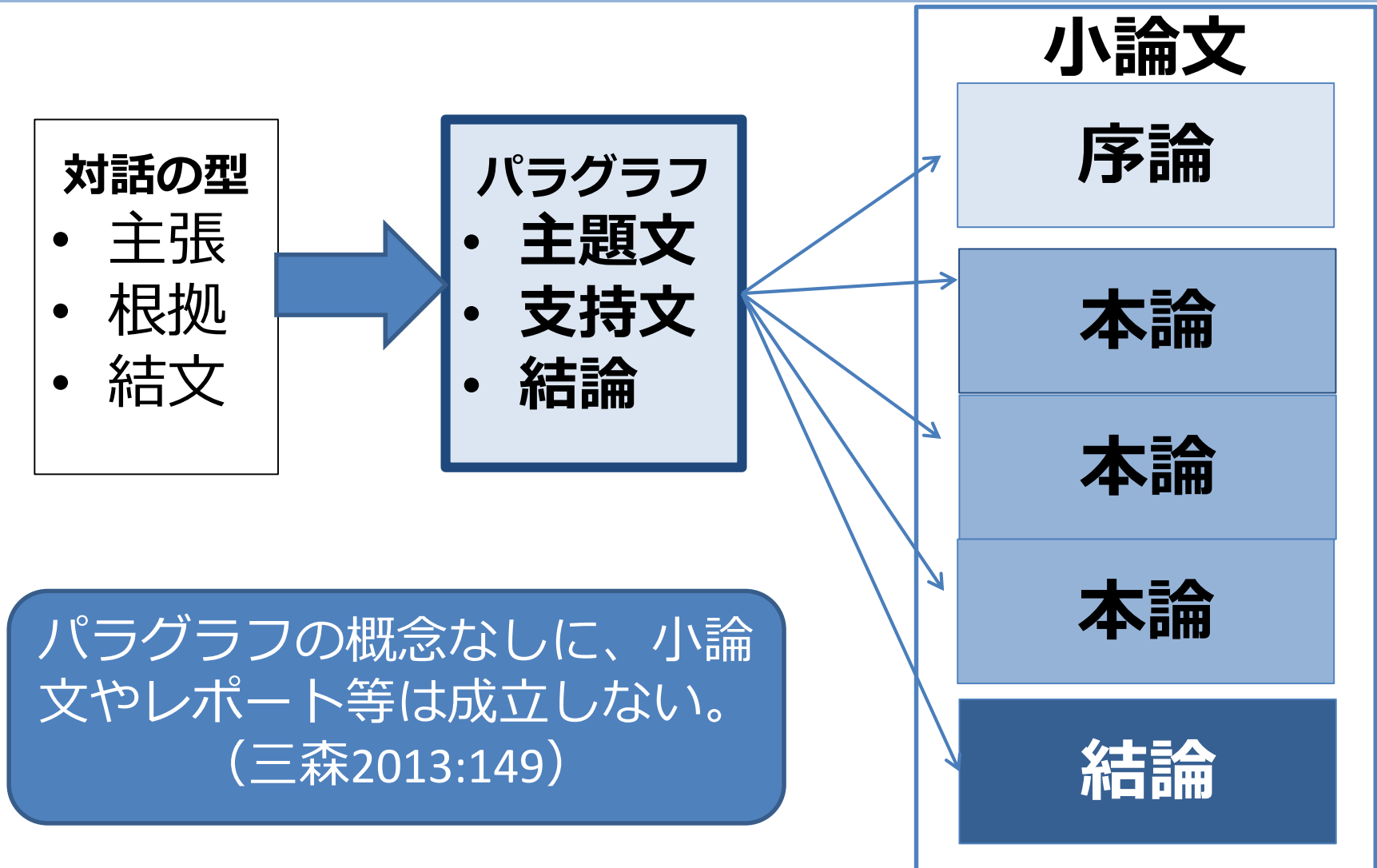
2.2 対話の型のトレーニング

次のテーマについて、ペアまたはグループで問答ゲームをしましょう。問が出なくなったら、次のテーマに移ってください。

- 海外留学したいか。
- 中学・高校に制服は必要か。
- 子どもにスマートフォンをもたせるべきか。
- 電車で女性専用車両は必要か。

答える側はルールを意識すること。また、問う側は、相手の答えに不足点がないかチェックし、あれば不足点を補う質問をすること。

3. パラグラフ・ライティング



3.1 パラグラフの基本構成

- **主題文** Topic Sentences

主張、意見、考え、述べようとする事柄の予告など、書き手が最も伝達したい事柄の記述

- **支持文** Supporting Sentences

主題文に関連する根拠、具体例、説明、証拠など、主題文を支える部分

- **結論** Concluding Sentence

パラグラフの終了を示す文。主題文を言い変えて強調、まとめ、主題から引き出せる一般論など

3.2 ケース・スタディ

スライドの文章には、パラグラフ・ライティングの観点からはいくつかの問題がある。どのような点を直す必要があるか考えてみましょう。



3.2 ケース・スタディ

執筆前の計画：

最終的に何が言いたいのか？ = 【結論】

上の「結論」にもっていくためには、どんな根拠が必要か？ = 【支持文】

**どう始めれば文章のテーマが伝わるか？
読み手に「心の準備」をさせられるか？
= 【主題文】**

4. まとめ

- 日常的なコミュニケーションの論理的なコミュニケーションの間には大きな**ギャップ**がある。
- 論理的なコミュニケーションのためには、**必要な情報を、明確に示す**ことが必要である。また、**意見や主張には根拠が必要**である。
（曰ごろから「対話の型」を意識するとよい。）
- 論理的な書き方の基本として、パラグラフの基本構成にもとづいた、**パラグラフ・ライティングを意識**するとよい（計画性が必要）。

【パラグラフの基本構成】

- 主題文
- 支持文
- 結論



【参考文献】

三森ゆりか（2007）「大学生のための言語力トレーニング 文章の構成（1）」（『言語』36-6 大修館書店）

三森ゆりか(2013)『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店